

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

3. 展示

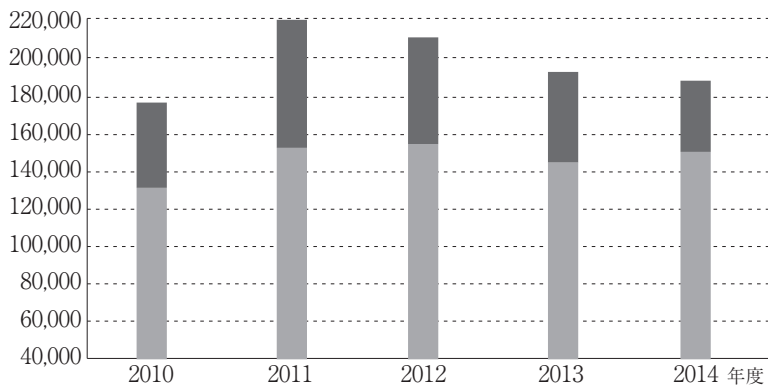
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00005949

3 展示

入館者数

●2014年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 247,365人

●入館者数（5年間）



年度	個人	団体	合計
2010	130,866	45,122	175,988
2011	152,024	67,856	219,880
2012	154,063	56,480	210,543
2013	144,263	47,978	192,241
2014	149,931	37,684	187,615

本館展示

●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

●本館展示プロジェクトチーム（2014年度現在）

	代表者	構成メンバー（五十音順）				
オセアニア展示	Peter J. Matthews	印東道子 林 勲男	菊澤律子	久保正敏	須藤健一	丹羽典生
アメリカ展示	鈴木七美	伊藤敦規 関 雄二	岸上伸啓 八杉佳穂	齋藤 晃	齋藤玲子	鈴木 紀
ヨーロッパ展示	宇田川妙子	庄司博史	新免光比呂	森 明子		
アフリカ展示	三島禎子	飯田 卓	池谷和信	川瀬 慈	竹沢尚一郎	吉田憲司
西アジア展示	山中由里子	上羽陽子	菅瀬晶子	西尾哲夫		
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈	笹原亮二	寺田吉孝		
言語展示	菊澤律子	庄司博史	西尾哲夫	八杉佳穂	吉岡 乾	
南アジア展示	三尾 稔	上羽陽子 松尾瑞穂	杉本良男 南 真木人	竹村嘉晃* 吉岡 乾	寺田吉孝	豊山亜希*
東南アジア展示	信田敏宏	樫永真佐夫	佐藤浩司	平井京之介	福岡正太	吉田ゆか子*
中央・北アジア展示	藤本透子	池谷和信	小長谷有紀*	佐々木史郎		
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	太田心平	朝倉敏夫	林 史樹*			
東アジア展示（中国地域の文化）	横山廣子	河合洋尚 野林厚志	韓 敏	小長谷有紀* 陳 天璽*	塚田誠之	
東アジア展示（アイヌの文化）	佐々木史郎	伊藤敦規	岸上伸啓	齋藤玲子	佐々木利和*	吉田憲司
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信 出口正之	呉屋淳子* 野林厚志	笹原亮二 廣瀬浩二郎	庄司博史 南 真木人	菅瀬晶子
情報・インフォメーション	丸川雄三	飯田 卓 福岡正太	伊藤敦規	中村嘉志*	野林厚志	廣瀬浩二郎
イントロダクション展示	日高真吾	齋藤玲子	山中由里子	吉田憲司		

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す

●特別展・企画展・ワーキンググループ、本館展示新構築総括チーム等

飯田 卓 上羽陽子 齋藤玲子 日高真吾 南 真木人 山中由里子 吉田憲司

●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 竹沢尚一郎

アフリカ展示チームメンバー（館内）飯田 卓 池谷和信 川口幸也 三島禎子 吉田憲司

内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 西尾哲夫

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 山中由里子

内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 寺田吉孝

音楽展示チームメンバー（館内）笹原亮二 福岡正太

内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

言語展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 庄司博史

音楽展示チームメンバー（館内）菊澤律子 長野泰彦 西尾哲夫 八杉佳穂

内容

音声や身ぶりを媒体とすることばは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性を生み出すことばは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー 印東道子

オセアニア展示チームメンバー（館内）菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 白川千尋 丹羽典生 林 勲男

Peter J. Matthews

内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 八杉佳穂

アメリカ展示チームメンバー (館内) 岸上伸啓 鈴木七美 鈴木 紀 齋藤 晃 関 雄二 中牧弘允

内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

内容

展示資料の情報を検索して調べることができる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんなの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんなの研究って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示 (日本の文化) チームリーダー 日高真吾

東アジア展示 (日本の文化) チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子

野林厚志 出口正之 廣瀬浩二郎 南 真木人 陳 天璽

内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれています。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」「日々の暮らし」「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開 2014年3月20日～
 東アジア展示（朝鮮半島の文化）チームリーダー 朝倉敏夫
 東アジア展示（朝鮮半島の文化）チームメンバー （館内）太田心平

内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開 2014年3月20日～
 東アジア展示（中国地域の文化）チームリーダー 塚田誠之
 東アジア展示（中国地域の文化）チームメンバー （館内）韓 敏 小長谷有紀* 田村克己 野林厚志
 横山廣子

内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらしている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
 南アジア展示チームリーダー 三尾 稔
 南アジア展示チームメンバー （館内）上羽陽子 杉本良男 寺田吉孝 松尾瑞穂 南 真木人 吉岡 乾
 竹村嘉晃* 豊山亜希*

内容

南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。この展示では、宗教文化や生業・工芸の多様性、都市を中心とした活気あふれる大衆文化、またグローバル化のなかで花ひらく染織文化のすがたを紹介する。

東南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
 東南アジア展示チームリーダー 信田敏宏
 東南アジア展示チームメンバー （館内）樫永真佐夫 佐藤浩司 平井京之介 福岡正太 吉田ゆか子*

内容

森と海に囲まれた東南アジア。熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内でなどをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼くなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。本展示場では、「東南アジアの1日」をテーマに、その多彩な民族文化を紹介する。

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す。

特別展示・企画展示など

●特別展

第35回 「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」

- 会 期 新美展：2014年2月19日～6月9日
民博展：2014年9月11日～12月9日
- 会 場 新美展：国立新美術館 企画展示室
民博展：国立民族学博物館 特別展示館
- 主 催 国立民族学博物館、国立新美術館
- 共 催 日本文化人類学会
- 特別協力 民族藝術学会
- 協 力 国立情報学研究所、千里文化財団
- 入場者 35,704名
- 実行委員長 吉田憲司
- 実行委員 (館内) 須藤健一、上羽陽子、丸川雄三、山中由里子、齋藤玲子
(館外) 青木 保 (国立新美術館)、南 雄介 (国立新美術館)、長屋光枝 (国立新美術館)、
山田由佳子 (国立新美術館)、小泉潤二 (大阪大学大学院)、足羽與志子 (一橋大学大学院)、
春日直樹 (一橋大学大学院)、窪田幸子 (神戸大学大学院)

内 容

国立民族学博物館開館40周年・日本文化人類学会創立50周年記念事業として、2014年2月から6月まで、東京・国立新美術館において本館の所蔵品を展覧する「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を開催し、さらに同展を同年9月より12月まで、本館特別展示館で開催した。

美術館の空間で成立した展示を博物館で再展示するという今回の試みは、美術（アート）と器物（アーティファクト）、芸術と文化、美術館と博物館、美術史学と文化人類学、西洋と非西洋といったさまざまな既成の区分を改めて問い直すものとなった。同時にそれはまた、美術館と博物館との協働が生み出す、新しい文化創造の場の可能性をさぐるものでもあった。

また、本館展示（常設展示）では、世界各地から集められた標本資料コレクションを地域別に常設展示しているが、今回の特別展ではそのコレクションをイメージの働きという視点から通文化的に展覧するものであり、本館にとっては「民博コレクション再発見」の機会となった。

●企画展

「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」(国際連携展示)

- 会 期 2014年9月4日～11月18日
- 会 場 企画展示場
- プロジェクトリーダー 岸上伸啓

内 容

本館には植村直己や岡 正雄が収集した学術的に重要なグリーンランド・イヌイットの資料がある。これらの本館所蔵品を中心に北海道立北方民族博物館、高円宮家、デンマーク王室（ヘンリック・コレクション）などの所蔵品や映像・音響資料を用いて、グリーンランドの自然、グリーンランド人（イヌイット）の歴史と文化、グリーンランドの現状、グリーンランドと日本の人的／学術的／経済的交流について紹介する企画展を開催した。

本企画展は、グリーンランド国立博物館・文書館及びデンマーク国立博物館との国際連携展示として行われ、展示場第一部のデザイン及び演示を、グリーンランド国立博物館・文書館員が担当した。

また、2015年3月28日から4月19日まで、東京の代官山ヒルサイドフォーラムにて、「スピリチュアル グリーンランド」と題し巡回展が開催された。

「みんなくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」(人間文化研究機構連携展示)

- 会 期 2014年5月15日～8月5日
- 会 場 企画展示場
- プロジェクトリーダー 日高真吾

内 容

本企画展は、2013年に大阪府より当館に寄贈された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」を用い、本館の新着資料を紹介する機会として、また、大阪府指定文化財の展示活用成果として開催された。

本コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しているものであり、国内の玩具コレクションのなかでも大規模なものとなっており、展示は、ブリキ製玩具、ボード玩具（盤上玩具）、マスコミ玩具、カード玩具（絵札玩具）の4つのコーナーから構成され、近現代日本の世相を概観する機会となった。

本展では、本館の所蔵資料を国内外でより効率的・効果的に展開することを目的として、組立て式展示什器（トラベリング／ディスプレイ・システム）を開発し、人間文化研究機構連携展示として、宮城県内の4会場において巡回展を行った。

2014年9月11日～10月5日	岩沼市民図書館 ふるさと展示室
2014年9月12日～9月21日	石巻市「まんがる堂」2階オープンギャラリー
2014年9月13日～9月23日	気仙沼「海の市」2階オープンスペース
2014年10月11日～11月30日	東北歴史博物館 特別展示室

展示関連出版物およびプログラム

●特別展

『イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる』

発行日	2014年2月18日
編集	「イメージの力」実行委員会
発行	国立民族学博物館

●ビデオトーク

『現代韓国の結婚準備過程——スドメを知っていますか?』（番組番号2810）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

現代の韓国で結婚儀礼の手順のように行われている「ス・ド・メ」。スドメとは何かを紹介する。

『旧正月の風景——ユン・スジュンさん宅のソル茶礼』（番組番号2811）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

旧正月に先祖に捧げる祭祀、ソル茶礼。ユン・スジュンさん宅での茶礼の方法を紹介する。

『韓国の大学入試文化——大学入試を準備する特別な方法』（番組番号2812）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

大学入試までの学生や両親たちの準備や行事、入試当日の様子などを見る。

『강원도의 메밀음식』（番組番号8031）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

메밀과 관련한 강원도 사람들의 생애 이야기가 펼쳐진다. 공동제작: 한국 국립민속박물관.

『자동차고사: 안전을 기원하는 한국인의 염원』（番組番号8032）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

안전을 기원하는 마음으로 자동차 고사를 준비하는 과정과 사람들의 생각을 담고 있다.

『2014 한국의 돌잔치』（番組番号8033）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

최신의 한국 돌잔치 문화, 상업화 된 돌잔치의 외연을 가지고 있지만 아이와 부모의 건강과 행복을 기원하는 마음은 세대를 관통하며 이어진다.

『ミャオ族の聖歌隊——中国雲南省富民県西山教会献堂式』（番組番号1724）制作監修：横山廣子

雲南省東北部のミャオ族にはキリスト教徒が多い。教会の献堂式で、聖歌隊が西洋声楽にも似た発声法で、見事なコーラスを披露した。

『リス語の讚美歌——中国雲南省怒江リス族自治州の教会』（番組番号1725）制作監修：横山廣子

怒江自治州のリス族、ヌー族の多くはキリスト教徒。彼らはいずれもリス語で、独特の発声の男女混成四部合唱の讚美歌を歌う。

『回族の婚礼——中国雲南省大理』（番組番号1726）制作監修：横山廣子

大理の回族はペー語を話す、このようにペー族の花嫁が嫁いでくるのは珍しい。イスラム教徒と中国との両方の特徴がみられる結婚式。

『祝いの音 戦いの記憶——フィリピン・ルソン島 山地民の結婚式』（番組番号1723）制作監修：米野みちよ、寺田吉孝

フィリピン、ルソン島に住むカリंगाの結婚式は、キリスト教会で式をあげたあと、花嫁の家で伝統的なゴング音楽を演じる。

Sounds of Bliss, Echoes of Victory : A Kalinga Wedding in the Northern Philippines (番組番号3723) 制作監修：Michiyo YONENO REYES, TERADA Yoshitaka

A wedding among Kalinga people of the Philippines includes a Christian ceremony at church followed by the traditional music and dance at the house of the bride's family.

Kasar idiaq Tabuk (番組番号8030) 制作監修：Michiyo YONENO REYES, TERADA Yoshitaka

A wedding among Kalinga people of the Philippines includes a Christian ceremony at church followed by the traditional music and dance at the house of the bride's family.

Guitars of Puerto Rico (番組番号7227) 制作監修：Robert GARFIAS, TERADA Yoshitaka and SASAHARA Ryoji

Puerto Rico is strongly influenced by Spanish culture. The film features the making of the guitar-like instruments which are originally from Spain, and the music played on them.

Guitars of Portugal (番組番号7228) 制作監修：Robert GARFIAS, TERADA Yoshitaka and SASAHARA Ryoji

The film features many local guitar traditions of Portugal, from Lisbon, Coimbra, Braga and Alentejo.

『ネパール——都市の結婚式』（番組番号1727）制作監修：南 真木人、寺田吉孝

富裕なヒンドゥー司祭カースト（バフン）家族の結婚式。日数をかけ、儀礼を省略しない点で王族の結婚式に近いといわれる。

『ネパール——山村の結婚式』（番組番号1728）制作監修：南 真木人、寺田吉孝

ヒマラヤを遠くに仰ぎ見ながら繰り広げられる結婚式。パンチャイ・バージャの伝統的な音楽が2人の門出を祝福する。

『ネパールの金細工』（番組番号1729）制作監修：南 真木人、寺田吉孝

金細工カーストの職人が、女性を着飾る金の装飾品を制作する。それは色とりどりのビーズに通され、首飾りなどに仕上げられる。

『カトマンドゥ盆地の30年』（番組番号1730）制作監修：南 真木人、寺田吉孝、藤井知昭

1982年に民博が取材した4家族を2013年に再訪した。30年の間にネパールはどう変わったのか、家族のその後から振り返る。

『金属加工技術 彫金と鍛金 1 ——金槌の種類』（番組番号1731）制作監修：日高真吾

彫金と鍛金では、作りたい形状に合わせてさまざまな金槌が使われる。ここでは多様な金槌の種類について紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 2——器をつくる』（番組番号1732）制作監修：日高真吾
金属の板を叩き、形状を整える金属加工の技術を鍛金という。ここでは、鍛金による器作りを紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 3——指輪をつくる』（番組番号1733）制作監修：日高真吾
指輪は形状を鍛金で作成、模様を彫金する。ここでは、鍛金と彫金の技術を組み合わせた指輪作りを紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 4——タガネをつくる』（番組番号1734）制作監修：日高真吾
タガネは彫金の作業で最も重要な道具。彫金の形状に合わせて職人自ら制作する。ここではそうしたタガネ作りを紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 5——ペンダント』（番組番号1735）制作監修：日高真吾
首もとを飾るペンダント。ここでは、美しい模様を彫金で削りだしていく様子を紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 6——タガネの種類』（番組番号1736）制作監修：日高真吾
彫金で最も重要な道具のタガネは、職人によってさまざまな種類のものが制作される。ここでは多様なタガネの種類を紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 7——糸鋸』（番組番号1737）制作監修：日高真吾
金属工芸では、複雑な形状を糸鋸で切り出していく。ここでは固い金属を慎重に切り出していく職人の技を紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 8——キサゲ』（番組番号1738）制作監修：日高真吾
金属工芸は、作品の艶がその美しさを演出させる。ここでは、キサゲという道具で艶を出す作業を紹介する。

『金属加工技術 彫金と鍛金 9——地金を丸くする』（番組番号1739）制作監修：日高真吾
鍛金の基礎技術に、地金の板を丸く加工していく技術がある。ここでは、そのような基礎的な技術を紹介する。

●研究用映像資料

『トッパ人たちの住むところ』（番組番号7226）制作監修：小長谷有紀
トッパ人は、ロシア、中国、モンゴルの3か国にまたがって住んでいる。ホームイと呼ばれるのど歌で知られている人びとである。

●マルチメディア番組

『映像で見るマンダラ』（番組番号6055）制作監修：立川武藏
マンダラには、宮殿の中に並ぶほとけたちが描かれている。ほとけの姿や、マンダラを用いた瞑想について解説する。

『神への祈りと喜びの舞曲——バッハからバルトークへ』（番組番号6053）制作監修：新免光比呂
バッハやバルトークというと高尚（こうしょう）なクラシック音楽という印象だが、教会での祈りや生活の中の楽しみから育まれたものである。

● 「みんなく電子ガイド」プログラム数（2015年3月31日現在）

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	12	12	12	12
東南アジア	22	22	22	22
中央・北アジア	23	23	23	23
東アジア				
朝鮮半島の文化	47	47	47	47
中国地域の文化	39	39	39	39
アイヌの文化	8	8	8	8
日本の文化	35	35	35	35
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総 計	各 281			

